

## 選挙と税の深いつながり

小平市立小平第三中学校 3年 遠藤 匠悟

先日、選挙には多額の税金が費やされていると、親が教えてくれました。そこで私は、選挙と税金の関係性について、調べてみました。

例えば、二〇一九年の参議院議員選挙では、五七一億円、二〇一二年の衆議院議員選挙では、六六六億円もの税金が使われています。

私はこの事実を知り、選挙権をもった後は、必ず選挙に行くようにしようと思いました。五〇〇億円もの税金を使ってつくられた機会を無駄にするわけにはいかないと考えるからです。

また、私が選挙に行くことは大切だと考える理由がもう一つあります。選挙で投票することは、自分たちの納めた税金の使い道を決めるということです。

一般的に、選挙では、自分の住む地域の議員や長、都道府県の知事などを決めます。彼らは公約として、自分たちの納めた税金をどのように使うかを掲げています。その後、当選した人達は、税金の一部が給料となり、公約の実現に向けて動き出します。そんな彼らによって、医療費を軽減してもらったり、私たち中学生の使う教科書が無償で支給されていたりするのです。

このように、私たちが選挙に関心をもち、そして投票することは、間接的ではありますが、私たちの大切な税金の使い道を決めることにつながっています。

それにも関わらず、選挙権を棄権し、投票に行かない人が多くいます。

二〇一六年の参議院議員選挙の棄権者は約四八一一万人、選挙権をもつ人の約半分にあたります。また、十代、二十代は特に棄権者が多く見られます。若者が投票に行かないと、どのような問題が生じるのでしょうか。若い世代の投票率が少なく、高齢者の投票率が高いと、政治家たちは高齢者ウケの良い政策を打ち出すようになります。そうすると、若い世代は、自分が投票しようがしまいがどうでもいいと思うようになり、更に棄権者が増えます。

このような負のスパイラルを防ぐには、若者が、政治に関われるという実感をもてるように、政治家たちがもっと若者の意見を取り入れることが必要だと私は考えます。

以上のように、選挙に行くことは、自分たちの納めた税金の使い道を決める、とても大切なことだと私は考えます。税金をしっかりと納めるだけでなく、選挙に行って投票することで、この日本をより良くしていきましょう。